

## 総務省国立研究開発法人審議会（第21回）

1 日 時 令和7年1月23日（木）10時00分～11時00分

2 場 所 WEB会議にて開催

3 出席者

（1）委員（敬称略）

尾家会長、梅比良会長代理、尾辻委員、藤野委員、若林委員（以上5名）

（2）専門委員（敬称略）

牛尾専門委員、生越専門委員、小塚専門委員、小紫専門委員、篠永専門委員、  
末松専門委員、前原専門委員、村瀬専門委員、森井専門委員、森田専門委員、  
矢入専門委員（以上11名）

（3）国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構

笠原経営企画部企画課長

（4）総務省

竹村国際戦略局長、近藤官房審議官（国際技術、サイバーセキュリティ担当）、扇  
宇宙通信政策課長、上野宇宙通信政策課衛星開発推進官、菅野宇宙通信政策課専門  
職、津幡技術政策課技術革新研究官、平野技術政策課課長補佐

4 議 題

（1）国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の第5期中長期目標（案）について

## 開 会

【尾家会長】 ただいまから第21回総務省国立研究開発法人審議会を開催いたします。

本日は、御多忙のところ御参集いただきまして、誠にありがとうございます。今回はウェブ形式での開催でございます。

初めに、本日の会議の定足数の関係でございますが、定足数を満たしておりますことを御報告いたします。また、専門委員の皆様にも御出席いただいております。

本日は会議を12時まで予定しているところではありますが、議事の進行によりましては、前倒しで終了する可能性がございますので、あらかじめ御了承ください。

では、開催に先立ちまして、竹村国際戦略局長から御挨拶をいただきたいと思っております。お願いいたします。

【竹村局長】 おはようございます。総務省国際戦略局長の竹村でございます。本日の議論に先立ちまして一言御挨拶を申し上げます。

本日は朝早くからお集まりいただきまして、ありがとうございます。宇宙通信分野では、この数年、低軌道衛星コンステレーションの急速な普及に代表されるように、民間事業者の参入が進み、宇宙産業は大きく成長が期待されております。また、去年の能登半島地震において、地上系のネットワークが被害を受ける中、衛星通信が応急復旧に活用されるなど、経済・社会における宇宙システムの役割も高まってきております。

このような状況の中、JAXAは、宇宙開発の中核機関として、自らの技術開発に精力的に取り組むとともに、宇宙分野における産学官を結ぶ結節点として、大学や民間事業者への支援の役割も期待されてございます。

また、総務省の情報通信政策におきましても、宇宙通信政策の重要性が増しておりまして、総務省とJAXAの関係も深まっております。技術試験衛星9号機（ETS-9）のような共同プロジェクトの実施や、JAXAが利用する周波数の割当てといった従来からの取組に加えまして、昨年創設された宇宙戦略基金により、総務省とJAXAが一体となって、民間事業者等の技術開発や商業化の支援に取り組み始めたところでございます。

本日は、JAXAの次期中長期目標案について、皆様の御審議をいただきます。今後数年間のJAXAの方向性を定める重要な議題でございますので、どうぞ皆様の闊達な御議論をお願いいたします。どうぞよろしくをお願いいたします。

【尾家会長】 竹村局長、どうもありがとうございました。

また、藤本正代専門委員が令和6年12月31日付けで退任されましたので、会の構成につき

ましては、参考国研21-8のとおりとなっております。

それでは、事務局より配付資料について説明をお願いいたします。

【平野課長補佐】 事務局の技術政策課、平野でございます。本日は、JAXAに係る議題のみとなりますので、宇宙通信政策課より事務局としての対応をお願いしたいと存じます。

では、宇宙通信政策課、よろしくをお願いいたします。

【上野衛星開発推進官】 そうしましたら、宇宙通信政策課の上野から説明させていただきます。本日はお願いいたします。

また、効率的に審議を行うにあたり、委員の皆様からの質問、事実確認に対応できるよう、JAXAの皆様にも御出席いただいておりますので、あらかじめ御承知おきいただければと思います。

配付資料の確認に移らせていただきます。議事次第がございまして、資料国研21-1、参考資料として、参考国研21-1から8となっております。資料の不足等ございましたら、事務局までお知らせください。

また、ウェブ会議の接続が切れた場合には、お手数ですが、再ログインをお願いいたします。緊急時には、事前にお伝えしている電話番号まで御連絡をお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。

## 議 題

### (1) 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の第5期中長期目標（案）について

【尾家会長】 それでは、お手元の議事次第に従いまして、議事を進めてまいりたいと思います。本日の議題は1件で、議題「(1) 宇宙航空研究開発機構の第5期中長期目標（案）について」のみでございます。事務局より御説明をお願いいたします。

【上野衛星開発推進官】 資料国研21-1が中長期目標の案となっております。参考国研21-1で概要を説明させていただければと思います。

参考国研21-1を御覧ください。ページをおめくりいただきまして、まずこの中長期目標策定の流れについて御説明させていただきます。

主務大臣の一番上の部分、見直し内容（原案）の提示からスタートしております。この見直し内容については、現行の第4期中長期目標期間における見込み評価の結果を踏まえた見直し内容になっております。この見直し内容については、7月23日の部会、それから8月23日の親会で御審議いただきまして、8月29日に4府省連名で公表させていただいております。また、独立行政法人評価制度委員会のほうに通知いたしております。

その後、委員会での審議と並行いたしまして、JAXA所管4府省におきまして、JAXAとも意思疎通を図りながら、見直し内容を踏まえた目標原案の検討を進めてまいりました。目標の原案につきましては、11月25日、それから12月23日と2回にわたって部会で御審議いただいております。また、各省の部会においても並行して御審議いただきまして、本日、親会で御審議いただくものについては、4府省の部会の意見を踏まえて取りまとめたものになっております。

本日の審議を踏まえ、主務大臣として第5期中長期目標（案）を決定させていただき、委員会のほうに通知いたします。この委員会から第5期中長期目標（案）に対する御意見をいただき、2月末までに第5期中長期目標を決定いたしまして、JAXAに指示するという流れになっております。その後、JAXAから主務大臣に対して中長期計画の認可申請が行われ、主務大臣として3月末までに中長期計画の認可を行うという手続となっております。

続いて、第5期中長期目標（案）についての説明に移らせていただきます。目標案については、政策体系図と評価軸を添付することとなっております。一つ一つ簡単に説明させていただければと思います。

2ページ目を御覧いただければと思います。第4期と第5期中長期目標の構成を比較したものになります。赤字が統合／大きくくり化、青字が削除、下線が項目名の修正、灰色が評価単位を示しております。

上囲い部分に記載させていただいておりますとおり、JAXAを取り巻く環境変化等を踏まえまして、第5期の目標として項目立てをしております。

また、宇宙基本計画も踏まえつつ、細分化していた項目を大きくくり化しております。評価単位は、28項目から19項目となっております。

続いて、第5期中長期目標（案）の主なポイントについて説明させていただきます。まず、濃いオレンジ色が大柱となっております。こちらは独立行政法人の目標の策定に関する

指針で求められているものになっています。この柱に沿って作成しております。

1つ目、「Ⅰ. 政策体系における法人の位置付け及び役割」の「1. 宇宙政策の目標達成に向けた政策体系」につきまして、こちらは宇宙基本計画の中で「宇宙安全保障の確保」、「国土強靱化・地球規模への対応とイノベーションの実現」、「宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造」、「宇宙活動を支える総合的基盤の強化」が政策目標として掲げられていることを踏まえ、この4点に沿ってJAXAの役割を記載しているところでございます。

「Ⅱ. 中長期目標の期間」につきまして、こちらは令和7年4月1日から令和14年3月31日までの7年間となっております。

「Ⅲ. 研究開発成果の最大化その他業務の質の向上に関する事項」につきまして、まず「Ⅲ. 1. 宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクト及び研究開発等の実施」では、柱の中に1から5までございます。「Ⅲ. 1. 1. 宇宙安全保障への貢献」では、政府における宇宙安全保障の確保の取組に貢献するとされており、情報収集衛星、準天頂衛星システム、宇宙利用に関する国際ルールづくりに係る政府の支援等が記載されております。

「Ⅲ. 1. 2. 地球観測・通信・測位」では、研究開発・社会実装による成果創出等により、防災・減災、国土強靱化や地球規模課題の解決等に貢献するとされており、地球観測、衛星通信、衛星測位等についての記載がございます。特に衛星通信につきましては、フルデジタル衛星通信、衛星光通信技術等のJAXAの一連の取組が記述されているところでございます。

「Ⅲ. 1. 3. 宇宙科学・探査」では、世界最高水準の科学的成果の創出、独創的・先鋭的技術の獲得、国際的プレゼンスを発揮し世界的に不可欠な宇宙機関としての立場を維持・向上させるとされており。

「Ⅲ. 1. 4. 地球低軌道・月面における持続的な有人活動」では、月面における持続的な有人活動、地球低軌道活動、それぞれについての取組を記載しております。

「Ⅲ. 1. 5. 宇宙輸送」では、基幹ロケットについては、継続する開発プロジェクトを着実に推進し、速やかな民間移管を達成するとしております。

「Ⅲ. 1. 6. 新たな価値を実現する研究開発及び分野横断的に開発・運用を支える取組」では、革新的な研究開発成果の創出、スペースデブリ対策等、それから分野横断的に開発・運用を支える取組として、周波数管理等が記載されております。

「Ⅲ. 2. 官民共創での宇宙利用拡大及び産業振興に資する研究開発等の取組」では、我が国の宇宙産業の国際競争力の強化及び非宇宙分野の主体を含む宇宙利用を拡大すると記載

されております。

「Ⅲ. 3. 宇宙戦略基金の活用」では、基金を活用し、民間事業者・大学等が複数年度（最大10年）にわたって大胆に技術開発に取り組めるよう、支援を行うとしております。各技術開発テーマの目標達成に向けた、知見及び経験を活かした技術開発マネジメント等を行うということが記載されております。

「Ⅲ. 4. 航空産業振興及び社会課題解決に資する航空科学技術に関する取組」については、航空の関係ですので、省略させていただきます。

「Ⅲ. 5. 宇宙航空政策の目標達成を支えるための取組」では、5点ございます。「Ⅲ. 5. 1. システムエンジニアリング／プロジェクトマネジメントの推進及び安全・信頼性の確保」では、担当部署から独立した立場でのプロジェクト評価を行う等、記載されております。

「Ⅲ. 5. 2. 国際協力・多様なプレイヤー間のグローバルな共創の推進及び調査分析」では、相手国及び地域の特性を踏まえた海外の宇宙航空機関との国際協力関係の構築・維持、国際的な枠組みにおける政府のルール形成等の取組支援等ということが記載されております。

「Ⅲ. 5. 3. 社会の理解増進及び次世代を担う人材育成への貢献」では、産学官を含む様々なプレイヤーとも連携した広報活動、それからJAXAの研究開発成果等を素材とした学習機会の提供等が記載されております。

「Ⅲ. 5. 4. 情報システムの活用と情報セキュリティの確保」では、過去にJAXAが経験したセキュリティインシデントに対する原因究明の結果等を踏まえた、さらに高度な攻撃に対する最新の情報セキュリティ対策・体制の強化の推進等を行うと記載されております。

「Ⅲ. 5. 5. 施設及び設備に関する事項」では、利用施設の持続可能なインフラマネジメントの実現、経営基盤である施設等の包括的マネジメントの推進等が記載されています。

「Ⅳ. 業務運営の改善・効率化に関する事項」では、民間事業者にとっての事業性・成長性を確保できるような契約制度の見直し、それから柔軟な契約形態の導入等が記載されております。

「Ⅴ. 財務内容の改善に関する事項」では、適切な財務内容の実現や、財務情報の公開に努める、自己収入等の増加を促進すると記載されております。

「Ⅵ. その他業務運営に関する重要事項」では、「Ⅵ. 1. 内部統制」、「Ⅵ. 2. 人事に関する事項」が記載されております。

続きまして、4ページ目を御覧いただければと思います。JAXAに係る政策体系図です。こちらは中長期目標の添付する資料になっております。国の政策体系におきましてJAXAの業務がどのように位置づけられているかを示したものになります。

左上でございますが、宇宙に関する政府方針としましては、宇宙基本法に規定されている宇宙基本計画がございます。最新の宇宙基本計画は、令和5年6月に閣議決定されておまして、この中において、我が国の宇宙政策の目標として、「宇宙安全保障の確保」、「国土強靱化・地球規模課題への対応とイノベーションの実現」、「宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造」、「宇宙活動を支える総合的基盤の強化」の4項目が掲げられています。

右上でございますが、こちらは、航空分野では、科学技術・イノベーション基本法に規定されている科学技術・イノベーション基本計画に対する分野別研究開発プランにおきまして、重点的に実施すべき研究開発の取組等が定められております。

また、これらの宇宙基本計画、分野別研究開発プランに加えまして、資料真ん中の水色枠でございますが、機構を取り巻く環境の変化がございまして、これらを踏まえて第5期中長期目標期間における取組を進めることとなっております。

ページをおめくりいただきまして、中長期目標を評価するための評価軸及び関連指標をご覧ください。こちらの中長期目標に添付する資料となっております。中長期目標の項目ごとに評価軸、それから評価軸と関連する評価指標とモニタリング指標を設定しております。

評価指標につきましては、様々な観点を踏まえて設定され、研究開発の事務及び事業を評価するに際しての最初の重要な視点となるものというのが定義となっております。

評価指標は、評価・評定の基準として取り扱う指標、関連するモニタリング事業は、正確な事実を把握し適正・厳正な評価にするために必要な指標ということが定義となっております。

例として、「Ⅲ. 宇宙戦略基金の活用」の評価軸等を記載しております。評価軸といたしましては、「宇宙戦略基金基本方針」及び「宇宙戦略基金実施方針」等に基づく民間事業者・大学等が主体となった技術開発の成果が創出されているか。またそのためのマネジメントは適切に行われているか。」

評価指標といたしまして、「宇宙戦略基金実施方針」に基づき、公募・選定するプロセス及び公募・選定した民間事業者・大学等における技術開発の進捗に係るマネジメントの状況」。関連するモニタリング指標として、「当該年度の支援件数」、「当該年度迄に技術開発が当初の技術計画通りまたはそれを超えて進捗している課題数の割合等」が記載されてお

ます。

そのような形で資料国研21-1のほうで、目標の本体と、政策体系図、評価軸についてが別添1、別添2と添付される形で、案としてまとめているところでございます。

私からの説明は以上です。

【尾家会長】 どうもありがとうございました。それでは、ただいまの説明につきまして、皆様から御質問、御意見をいただきたいと思っております。お願いいたします。いかがでしょうか。

【藤野委員】 東洋大の藤野です。よろしいでしょうか。

【尾家会長】 お願いいたします。

【藤野委員】 御説明いただきましてありがとうございました。参考国研21-1の資料の中で、この3番でまとめられた、この資料です。これは、今回の会議のために総務省さんが独自でまとめられたものという具合に認識してよろしいのでしょうか。といいますのは、例えば「Ⅲ. 1. 6. 新たな価値を実現する研究開発及び分野横断的に開発・運用を支える取組」というところがございまして、周波数管理、総務省さん的には非常に重要なあれかと思うのですけれども、それ以外にも、JAXAさんにおきましては、例えば環境試験技術とか、そういう部分につきましては、非常に先進的な、世界にも類を見ないような部分で開発を取り込んでいると認識しておりまして、こういう部分につきまして、こういうところにまとめられるのであれば書いておく必要があるかと思っておりますが、今回のためだけに資料をつくられたというのであれば特段問題ないかと思っておりますが、いかがでしょうか。

【尾家会長】 いかがでしょうか。

【上野衛星開発推進官】 御指摘のとおりでございます。総務省視点で、特に情報通信に関係するところが中心になるようにまとめさせていただいたものでございますので、網羅的にまとめたものではございません。

【藤野委員】 承知しました。そういう意味では、あくまでも資料国研21-1の部分が正本だという話という形で承りました。それであれば全然問題ないかと思っております。ありがとうございます。

【尾家会長】 どうもありがとうございました。

そのほか何か御意見、御質問はございませんでしょうか、お声かけいただけますでしょうか。

いかがでしょうか。

では、梅比良先生、分科会で非常に御熱心に御議論いただいたと伺っておりますが、今回

の件に関しまして、特に部会で議論が尽くされたというんですか、関心を持って意見交換がなされた事項などについて、ありましたら教えていただけますでしょうか。

**【梅比良会長代理】** JAXA部会の部会長を仰せつかっています梅比良でございます。

今回、第5期中長期目標の案につきまして、部会を2回開催いたしまして、さらにはその途中のメールを使った審議とかも含めて、7年間の目標設定ということで、かなり突っ込んだ審議をさせていただいたつもりでおります。

御承知のとおりで、この第5期中長期目標の一番大きな特徴というか、大きく変わった点は、宇宙戦略基金の活用と、それからそういう意味では第4期あたりから宇宙の活用、社会実装ということが随分言われてきていて、第5期については、それをさらに宇宙産業というところまで高めていこうということで、2番目の官民共創の話と宇宙戦略基金のところ、非常に大きな目玉というか、関心のあるところになってきているのかなと思います。こういったものをどのように進めていったらいいのか、あるいは評価の視点等々も含めて、いろいろ議論させていただきました。

宇宙産業というと、ビジネス化とかという話があるので、なかなか将来予測が難しいところがあるんですけども、産学官の力を結集できる枠組みとして宇宙戦略基金ができて、それを推進していく中心にJAXAがあるということでございまして、うまく7年間やっていただければなということです。

それからもう一つ、この辺で審議の大きなポイントがあったのは、大きなというわけではないんですけども、懸念点が言われたのは、一方でこの国立研究開発法人は要するに効率化ということが言われていて、一方でJAXAの役割はどんどんどんどん大きくなっていると、なかなか矛盾したことを要求されているというところもあって、そういうところはどうのような枠組みになっているかという話もいろいろ議論をさせていただいたところでございます。この中長期目標の案についての審議状況というのはそういうところでした。

なお、研究開発成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項のところ、各種プロジェクトが挙げられますけれども、そのところについては従来の延長ということで、細かな点の御指摘はいろいろありましたけれども、特に大きな問題はないかと思っております。全体として、7年間を進めていく大きな方針がうまくできたのではないかなと評価しております。

以上でございます。よろしく願いいたします。

**【尾家会長】** どうもありがとうございます。

ただいまの御説明も加えまして、皆様から御質問などございませんでしょうか。

【小塚専門委員】 学習院大学の小塚ですが、一言よろしいでしょうか。

【尾家会長】 お願いいたします。

【小塚専門委員】 学習院大学の小塚です。JAXA部会の専門委員として参加させていただきまして、この取りまとめられた計画自体について何か異論があるとか、そういうことではございません。これで着実に進めていただければと思います。

それで一言御発言申し上げたいと言ったのは、JAXAは日本の宇宙開発に関する研究開発機関ということであり、その研究開発というのは専ら技術的なものであること、これは間違いがありません。

ただ、私自身が法律学を背景にしていることもありまして、JAXAの中でも法とか政策に関わる職員の方が、一定数といえますか、相当な割合いらっしゃるって、その方々は世界的にも、例えば他国の宇宙機関の法律とか政策に関わる方々との間で非常に信頼関係を築いたり、情報をいち早く入手したりという努力をしておられます。宇宙開発が社会実装、さらには事業化という局面になってくる中で、そういった働きはますます大事になってまいりますので、今後の評価、さらに言えば今後の目標とか計画の修正等があるような場合にも、そうした技術部門ではない、広い意味での政策、制度に関わる方々にもぜひ光が当たり、正當に評価されるような、そういうことが望まれると感じまして、この場を借りましてお願い申し上げたいと思った次第です。

以上でございます。

【尾家会長】 ありがとうございます。大変貴重な御意見と思っておりますが、この辺りに対しまして、総務省かJAXAか何かございますか。

多分、どんな場面でも、大学もそうですが、教育に関しても、教育・研究開発を行う人だけでなく、それを取り巻く支援されるスタッフの重要性というのは、非常に認識されてきていると思います。JAXAにおかれまして、今のような法律関係などのいろいろな研究開発を支える方々がたくさんいらっしゃると思いますが、そういった方々にもきちんと日が当たるといいますか、その活動が評価される仕組みになっているかどうかといったあたりについてコメントをいただければと思います。

【扇課長】 総務省の事務局を務めております宇宙通信政策課長の扇でございます。小塚先生、コメントをありがとうございます。先生がおっしゃることは、まさにそのとおりだと思っております。どうしても研究開発をしている法人になりますと、間接部門というの

はなかなか日が当たりにくいという側面はあろうかと思います。一方で、宇宙の分野は、先生がおっしゃるように、非常に国際的に協調していくということは大事だと思っております。

私もこちらの分野を担当しまして非常に思うのは、国内だけでなかなか済まない話が多いという中で、国際ルールに携わられている方々の重要性ということに光を当てていくというのはおっしゃるとおりだと思っております。ちょっと今の時点で評価としてどのようにしていけばいいのかという具体的なアイデアはあるわけではないんですけれども、御指摘も踏まえて、今後我々としても業務を進めていければなと思っております。

総務省からは以上でございます。

**【尾家会長】** ありがとうございます。小塚先生、よろしいでしょうか。

**【小塚専門委員】** 結構でございます。ぜひそういうことで今後お取り組みいただければと思います。ありがとうございました。

**【尾家会長】** ありがとうございます。

そのほか何か御意見、御質問などはございませんでしょうか。お声かけいただければと思います。よろしいでしょうか。

では、私からも質問させていただきたいと思えます。

これまで十分御検討いただいてこの案が作成されましたこと、どうもありがとうございます。これにつきましては、JAXAにおける第4期の大きな成果、いろいろ困難もあったと思いますが、それを乗り越えて作成されたと、それに基づいて作成されたと理解しております。

そういった中で、総務省の視点では、先ほどからありますように、情報通信関連の視点で、1.2のフルデジタルですとか、先ほど周波数管理などもございました。特に総務省として重視されている項目について改めて、例えば宇宙戦略基金の活用がうまくいって、このような情報通信の技術が進むと大変うれしいなど、もし総務省側から付け加えていただけることがありましたらお願いいたします。

**【扇課長】** ありがとうございます。総務省の扇でございます。先ほど局長の挨拶にもありましたとおり、総務省としては、これまでJAXAとの共同のプロジェクトであったり、あるいは先ほどから話の上がっている周波数管理というところを中心に一緒に取組をさせてきていただいたところでございますけれども、総務省として今一番大きいと思っておりますのはこの宇宙戦略基金かなと思っております。

こちらは、先生も御案内のとおり、まさに政府全体で宇宙分野を盛り上げていこうということのできた基金ではございますけれども、総務省のほうでも、令和5年度補正予算で240億円、それから令和6年度補正予算で450億円と、非常に大きな予算を頂いております。その予算を使ってまさに宇宙の産業を活性化させていこうということでございます。その際には、JAXAさんのまさにファンディングエージェンシーとしてということではありますけれども、もともとJAXAさんがお持ちの知見というのをしっかり活用いただければと思っております。

そういった中で、総務省とJAXAさんの関係というのは非常にこの一、二年、密になってきたなと思っておりますので、ぜひ今後も一緒にこういった支援に取り組みればなと強く感じているところでございます。

そういう意味で、繰り返しになりますけれども、この宇宙戦略基金をぜひ我々のほうでも大事に育てていきたいなと思っております。

以上でございます。

**【尾家会長】** ありがとうございます。

委員の皆様、何か御質問はございませんでしょうか。

**【尾辻委員】** すみません、尾辻です。御説明ありがとうございます。次の第5期中長期の大きな特徴と申しますか、宇宙戦略基金の活用というところ、大変心強く思いました。

それで、全体のこの3ページのチャートを眺めてみて、H3ロケットですとか、多分、恐らく1,000億円以上の、2,000億円程度だったかもしれません、予算が計上されている一番大きな事業だと思うんですけども、そういった事業、ここについては、宇宙輸送ですとか、宇宙科学探査になるのかしら、幾つかのところが多分分かれてカバーされておられるんだと思うんですけども、打ち上げがなかなかうまくいかなかったときのリスクマネジについては、特に次の第5期中長期の間で特段、表立ってケアする必要はないのか、それとも言外に含まれているのか、その辺、もし事情がありましたら簡単に御説明いただけると安心できるかと思いました。

以上です。

**【尾家会長】** お願いいたします。

**【扇課長】** 総務省、扇でございます。御指摘ありがとうございます。おっしゃるように、H3ロケットの部分については、基本的にはまさにこの「Ⅲ. 1. 5. 宇宙輸送」の部分に記載してございまして、先ほど上野からの説明にあったとおり、基幹ロケットについては、継

続する開発プロジェクトを着実に推進し、速やかな民間移管を達成するという記載は入れているところでございます。その上で、実際に何かリスクが発生したときの対応等については、ちょっとここは総務省の所掌外にもなってしまうというところで、あまり我々自身が詳しく把握しきれているところではないんですけれども、もしJAXAのほうから何か補足いただけることがあればお願いできればと思うんですけれども、いかがでしょうか。

【JAXA（笠原）】 JAXA経営企画部の経営企画課長を務める笠原でございます。私から回答させていただきたいと思います。

今御指摘がございました、H3ロケットがうまくいかなかったことによって、衛星の打ち上げが遅滞したりとか、衛星を失ったということもございます。この辺は、JAXAの中でマネジメント改革検討委員会というものを開きまして、これは昨年度一度、取りまとめとして、文科省さんの部会等でも報告させていただいておりますけれども、この中で、今後そういった大きなロケットの開発において、きちんとリスクをマネジメントしながら、衛星への影響も含めて、ちゃんとリスクを管理していくという方策についても議論がされておりますので、これは今、目標の中にも、JAXAのマネジメント改革検討委員会における取組をきちんと反映していくという記述がされてございますので、この中でマネジメントとしてしっかりやっていくという方針を立てて、今後、計画等にも反映していきたいと思っております。

【尾辻委員】 どうも御説明ありがとうございました。よく分かりました。

【尾家会長】 どうもありがとうございます。

そのほか、皆様から御質問はございませんでしょうか。声かけいただければと思います。よろしいでしょうか。

では、もう1点、私からの質問をさせていただきたいと思います。最初の資料1ですか、文章になったほうで、Iで政策体系における法人の位置付け及び役割というのが書いてありまして、4ページでは、こういう社会課題というんですかね、その解決にも必要だということで、サイエンスからエンジニアリングの重要性が指摘されているかなと思います。4ページの冒頭になります。そこで、社会活動を支えるインフラとしての重要性が増しているということで、宇宙というのは最初はサイエンスから始まったと思いますが、こういうエンジニアリング的視点で取り組むということの重要性が示されていますので、より一層そういう情報通信等が活用されるとうれしいなと思っております。

その次の5ページに入る冒頭なんです。御指摘のとおり、「我が国の宇宙機器産業はこ

の動きに遅れを取りつつ」とか、5ページの冒頭の3行目ぐらいにあるんですが、よくこのように、世界から遅れを取っているので追いつこうとかという話になるんですが、あまり追いつけ追い越せということではなくて、我が国独自の、我が国はどういう視点でやっていきたいのか、我々はどんな強みを持っているのかというのを冷静に捉えて、多様な知識というんですかね、多様な認知能力を集めて、集合知を集めて取り組むんだと、何かポジティブにやっていただきたいなと思っています。先頭に行く人たちがずっと先頭に行くのではなくて、これまで追いついていく場面というのは歴史的にもたくさんあったと思うんですが、ぜひ柔軟な思考こそが重要だと思うんです。

そこで、質問というんですか、様々な知識、知恵を集めるような仕組みとして、JAXAさんの中に、産学連携といった産業界からの意見とかというものを取り込むような、また宇宙戦略基金を活用してなさっている産業界と一緒に何か意見交換を行うとか、新たな方向性について検討するといった仕組みというものはあるのでしょうか。教えていただければと思います。

【笠原経営企画課長】 それでは、JAXAの笠原から回答させていただきたいと思いません。

今御指摘のありました産官学の知識を集めるポイントとしての部署というものが、まずは産業界としては新事業促進部というものがございまして、これは、非宇宙分野の方、企業さんともいろいろな知恵を出し合いながら、新しい宇宙への適用する技術ですとか、逆に宇宙用に活用されたものを民間の事業として活用いただくといった、そういう取組を長年やっておりますので、その部署がこれまで負っておりました。

今おっしゃいました宇宙戦略基金、こちらは新しく、その運用をするために新しい事業部を立ち上げました。ここはその基金のテーマの採択あるいは運営を行うのを主体としておりますけれども、当然のことながら、その成果あるいはその次に向けての取組、こういったものの調査、分析を含めて、いろいろな情報を集めながら、新しい取組ですとか、海外の動向を含めた情報収集、これを集めて、政府の方々とも次のテーマの基金につなげていくといった活動もしておりますので、そういった意味では、これまで新事業促進部に加えて、その基金の事業部のほうでも、新しい産官学の結節点として、そういった情報収集あるいはその次の時代への技術戦略を含めた打ち込みというものも担っていくという形で、かなり拡張を強化されているとJAXAとしては考えておりますし、今後そういった取組も深めてまいりたいと考えております。

【尾家会長】 ありがとうございます。今後に期待いたしております。

では、委員の皆様、よろしいでしょうか。皆様、御理解が進んだかと理解いたしました。

それでは、これまで御説明いただきましたが、宇宙航空研究開発機構の第5期中長期目標（案）に関しまして、本審議会としましては、原案のとおりでよろしいのではないかと思います。そのため、本審議会の意見として、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の第5期中長期目標（案）について、案の内容は適当であるといたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。何か御意見などございましたらお願いいたします。

（「異議なし」の声あり）

【尾家会長】 ありがとうございます。それでは、特に御異議はないようですので、第5期中長期目標（案）につきまして、案の内容は適当であるといたしたいと思います。

また、総務省におかれましては、関係府省との調整等を進めていただくようお願いいたします。

また、最終的な第5期中長期目標につきましては、後日事務局から委員及び専門委員宛てにお知らせいただきたいと思います。

では、これまで部会におきまして熱心に御議論いただきましたことを感謝申し上げます。また、本日、御熱心に御質問、御議論いただきましたことを感謝申し上げます。

では、本日の議題は終了いたしますが、全体を通しまして何かございませんでしょうか。事務局から何かございますか。

【上野衛星開発推進官】 本日御審議いただいた結果を踏まえまして、他府省の審議会等でも議論していますので、その意見も取りまとめた上で、最終的に中長期目標案を決定していくという流れになっております。先生方にはフィードバックをさせていただきたいと思いますので、御承知置き下さい。

事務局からは以上になります。

【尾家会長】 ありがとうございます。

それでは、今後は、関係4府省においてさらに検討、調整をお願いいたしたいと思います。審議は以上です。

JAXA様におかれましては、大きなプロジェクトですので、大きな困難もあるかと思いますが、ぜひ乗り越えられまして、第5期も大きな成果を上げられますことを期待いたします。

それでは、事務局から事務連絡はございますでしょうか。

(2) その他

【菅野専門職】 事務局の菅野でございます。本日の御審議、誠にありがとうございます。事務局より幾つか事務連絡をお伝えいたします。

本日の議事録につきましては、後日、事務局が御確認をお願いさせていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。

また、予備として皆様にお時間をいただくようお願いしておりました2月3日月曜日につきましては、開催しないこととなりましたので、御了承いただきますようお願いいたします。

最後に、本日の会合をもちまして本年度の審議会は全て終了ということになってございます。来年度の審議会に関する日程につきましては、改めて事務局のほうから御連絡させていただきますと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

事務局からは以上でございます。

## 閉 会

【尾家会長】 どうもありがとうございます。

今年度はこれで最後ということですが、私も今年度で満期になると思います。これまで大変皆様御協力ありがとうございました。また、今期で終了されます委員の方、専門委員の方もいらっしゃると思います。これまでの御貢献に感謝申し上げます。

それでは、以上をもちまして第21回総務省国立研究開発法人審議회를終了いたします。どうもありがとうございました。

(以 上)